常磐文藝

◇生の光

一夫生

おゝ若者よ
何時迄も夢を見て
ゐちやいけない
形のない現に惱されて
ゐちやいけない
一滴……そは何物をも
貫けることの出來ない
エメラルドの如き若さに
輝く尊い生命の滴……
暗い夢の中に
落してはならない。
おゝ若者よ
前方を凝視せよ
そこには新しくそして又
明るい路が開けて
ゐるではないか。
若者！
更に更に眼を
見張つて望め
おゝ久遠に變らぬ
情き光を汝の正面に
齎らしてゐる
雄々しい
ライジングサンの
その姿を……。

——二五、二、九、——

社員招聘
月收百圓内外
——委細面談——
東京恒産株式會社
磐城支部
平町郡役所前

洋服◆オーバー
へやかな
平町二丁目

可驚勢デ！
一時賣盡シ
マシタガ
堅牢　英國製バレー
鋭利　安全剃刀
經濟　僅カ一圓八十錢
再ビ入荷取揃ヘマシタ
鶴屋商店
電話百四十番

◆◆◆
◇染料　◇工業用藥品　◇調劑品
渡邊藥局
平町三丁目
渡邊政五郎
（郵便局向）

……移轉急告……
美味で評判の
遠藤パン
（有聲座西隣）

◆出でたり。森永のお茶召上れ（宇治かほる）
『宇治かほる』
六十匁入　百廿匁入　五十錢　九十五錢
箱入
マツモトヤ
電話二一四番

入院隨意
目下病室增築中
磐城病院
平町田町大通（電話一一四番）

磐城眼科醫院
平町銀町

急告
瓦斯コークス用
こんろ　大小入荷
平町新川町
佐藤鐵工所
コークス部
電話三六二番

良い品を
安く賣る
大谷時計店
洋品部
平町三丁目電話一九番

平町紺屋町
土田眼科醫院

看護婦派出の求めに應す
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

是非……
粹で上品な履物を
御求めの際は
平町二丁目　電話一五六番
三井履物店

平白銀町
田邊機械店
電話二六七番

賣地
五丁目　賣地
地所付賣家
置賃
城跡一本丸三二ノ九
平町白銀町
加藤營業所
電話三二番

賃家
△柳町住宅向　十五圓
△仲間町商店向　十二圓
湯屋住宅向　十五圓
△白銀町商店向住宅向　十五圓

大正十二年十一月八日第三種郵便物認可
常磐毎日新聞（第三百五十七號）（一）

常磐毎日新聞

定價（一部金貳錢　月卅錢）
廣告料（五號十二字詰一行　五十錢）
郵稅五厘
休刊（日曜大祭日　祝日ノ翌日）
福島縣石城郡平町鍛冶町十一
印刷所　本社專屬　磐陽社
發行兼編輯人　川崎文治
福島縣石城郡平町長橋町卅五番地
發行所　常磐毎日新聞社
印刷人

二月十日夕刊

寄書

『郷土文化』を批評す（三）

無名氏

前磐城中學校長を辭したる後は、日本三中佐の一人大越中佐の顯頌會を奮立して早晩其の俱体現を期す人であり、磐城郷土の生ける孔子として地方師表者として仰がる植竹氏は「郷土文化」上に松井郡宰を新説し大越中佐に就きてを高論してゐる。文章の典正あると史實の整然たることゝ同時に自己の主觀を提言せるもの今日の墮落せる讀書界に反省と維新を與ふるものとして余は他に氏に向つて贅言を慎しむ。

◇

郷土史、誌の考證家として現に磐城高等女學校長文學士櫻井氏の赤井嶽龍燈に就いての研究を發表されてゐる。之れは磐城郷土の風土的奇説として地方人に科學的氷解を與へねばならずとして、櫻井氏が磐城の紀念置土産として、浩瀚なる材料を蒐集し、此の千古の疑問を明方すべく、毎號連載せらるゝを得ない。然し同論（一）、（二）に於ではまだ序論にして古今の書反説より立證されたゝけを示めしたに過ぎない、氏が研究主論の一端の境にも這入らぬ所故其の全核を窺評するに難きものである、氏は該研究に前提して斯う言つてゐる「龍燈の事は世界的であるたけ單に赤井嶽の龍燈を發表するだけでは、斯道に忠實でない。或は可成長き研究を要すかも知らない」云々と云つてゐるそれたけ氏の龍燈説は從來の諸家の發表を超越したものが期待されるゝ余は信ずるものである。かゝして氏の用意周到なる研究眼に今や往きつゝの場合、磐城民衆は氏の嚴正力によつて該説の釋然たるを喝望するのである（つゞ）

伊坂町長の辭表は愈々昨夕提出さる

直ちに善後策協議

伊坂町長の辭表は愈々昨日夕刻伏見助役の手許に提出された、既定の事實とは云へ斯ふなると名町長を失つた淋しさに今更らながら吏員達の顔色も今日は雲つて居る、伏見

助役は

殊更らに聲を忍めて『辭表の出た事は事實ですが未だ受付ないのです』と云ふ其の理由を問へば種々退職後の後任未に就いて町議一同の腹を定めてから正式に受付ける事になるらしい、其の爲明日は記元節にも拘らず午後一時から町議

一同が

協議會を開いた上で明後日午前九時から町會を開會し慰勞金額や後任町長を議する事になる段取りであると因に伊坂町長の略歴は左の如くである

伊坂氏略歴

△明治三年本縣行方宇多郡書記△同十五年任本縣八等屬同十八年北海道物産共進會委員△同十九年任北海道廳屬叙判任官五等△同廿年根室外九郡役所の勸業課長を命ず△同年兼任北海道廳警部△同廿四年北海道第三部用度課長を命ず、叙判任官三等△明治卅九年八月卒町長に當選從來累選五期に及ぶ

公園の梅

……平町松ケ岡公園の梅は南國尼子亭畔は日頃の暖かさに、ポツ〳〵咲きそめ既に三分通りは紅唇をほころばして香氣を放つて居り散策の人も多く賑はつてゐる

電話料金

注意印刷に附して

平郵便局にては電話料金の納附期日に關し加入者の注意を促す爲め見易き場所に張り付け得べき注意書を調整し本日一般に配附したが夫れに依ると納付期日は左の如くである

第一期分四月卅一日限
第二期分七月卅一日限
第三期分十月卅一限、第四期分一月卅一日限

湯本温泉を不夜城に

街燈約六十基

永らく懸案たりし湯本温泉の復活は極めて近々中に於てその實現を見るべく同町にてはこの機會に於て地方屈指の遊覽地たる狀態に復せしむべく高燭二百燭の街燈約六十基の建設其の他に關し役場吏員復湯會員消防幹部その他協力目下夫々奔走中であると

農會職員協議

岡出技師講演

石城郡町村農會役職員協議會は來る廿二日午前九時から石城郡會議事室にて開催午後から農商務省技師岡出農學士の講演ある由

會津人懇親會

石城郡在住會津人會では八日午後三時から平町丸新館に於て前石城郡遠藤書記、新任武井氏の歡送迎會を催した

磐女の試驗問題が本年は非常に平易

受驗準備の方針に就て

▽……櫻井校長語る

磐城高等女學校に於ける本年度の入學採用人員は二百名であつて前年より卅二名を增して居るが入學の志願者は優に五百名を突發するであらうと觀測されて居る而して試驗課目は國語算術の二課目で本年は從來より遙かに平易な問題を課す方針で此の意味に於て殊更難解の問題のみを選んで片寄つた勉強をするが如き必要なく受驗準備の復習方針も獨り前記二課目にのみ沒頭せず普遍的に復習する事が望ましいと櫻井同校長は語つた

湯本の表彰

紀元節當日に

石城郡湯本町では十一日表彰式を行ふが本月十四日久野德松方の火災を消止めた高卜操氏及品川白煉瓦會社に四十年間勤續してゐる職工長布施吉次郎氏(七〇)を表彰すると

四十男の操を破つた

損害の賠償

石城郡川部村大字小川小野野小(三九)は大正十二年中元郡議小野魯平氏の媒酌にて同郡植田町森林平養女こと(二九)の婿養子となつたが養家では同人が植田無盡會社に勤めの身として常に留守勝ちな處から妻女との同棲を拒み將來後嗣としての待遇をせぬと云ふので平町辯護士仲里文平氏を訴訟代理人として此程養子緣組婚姻豫約不履行損害賠償並に物品引渡請求の訴訟を平支部に提起したと

處分する潛り下宿屋

平署で調査中

近來財界不況の結果か平署管内の旅館或は普通民家に於て無届にて下宿業をなし居るもの多いので平署にては非番巡査を召集密裡に調査し違犯者には嚴重處罰すると

不平受付

投書歡迎

電柱に張札　年賀年始の賣出しに平商人が如何に焦慮すればとて他人の看板たるべき電柱廣告の掲示上へ遠慮なく自家廣告を貼附する不德者の續出は甚だ憤慨に耐えない、これは廣告權利者を侵害する行爲であるから自分は告訴を提起しやうと思ふ　(被害者の一人)

■樫村平署長の答　警察處罰令に觸るゝ行爲であるから告訴があれば早速是れを受理して取調べを開始する

春衣よ
モスリン
派手な色彩

モスリンはどうしても、派手でなければ、なるまいが關西物に比べたら單純な模樣が多い、此の春向としては未だ二三種しか現れてゐず昨年來ヒワ色の物が現れて夫れが受けた

關係上

明るへ輕つぽい綠色を基調とした物が出て居るが一体薄綠色は飽かれ易いから長持ちはしまい、長襦袢等にはやはりはつとしたローズ色が動くまいとの事だが此のヒワ色をあしらつた物には

模樣の

全体がローズと白夫れにちよい〳〵櫻の葉を薄綠で出した位の處が最も上品であり好ましい他の一つはヒワ色を地色として櫻の花を浮き出した物で少々俗ぽく見える之等は二十歳前後向きの考案で大巾一尺物八十錢から一圓位の處である

(大原モスリン店調)

優良補習校表彰

郡内に九校

石城郡内左記優良實業補習學校に對し本郡教育部會に於ては十一日の記元節を卜し是れを表彰し金卅圓宛を交附すると

窪田第一、山田校、大野第一、江名校、赤井第二澤渡校、中三坂校、下三坂校、差鹽校

小學生徒の三割が流感

父兄等は憂慮

濱通りに流行感冒が目下蔓延にて一戸平均二三人位宛の罹病者を出し尚ほ猖獗を極めつゝあるので縣當局はそれ〴〵訓示を發し善後策を講じつつあるが尚ほ小學生徒の三割はこれが爲め欠席患者を出しつつあるので目下學期末試驗に至大なる關係がある爲め一般父兄等の憂慮する處である

草野電信電話

今年中に設置

石城郡草野村同村郵便局に電信電話を設置するに經費二千五百四十圓を要するので同村では村費より一千圓を寄附することゝし內務大臣に申請中であつたが九日同事業は今年度中に施行する旨の通知があつた

平窪蠶業講演

石城郡平窪村蠶業講演會は十四日午前九時から常勝院に於て開會、本縣蠶業試驗場長太田直氏の講演あり傍聽を歡迎すと

豐間校學藝會

石城郡豐間小學校にては七日同村公會堂、八日薄磯修德院十日沼の內密藏院にて兒童學藝會を兼ね父兄懇談會を開いたと

平町人事

▲出生
△材木町二二　金澤政次郎氏長女光子
△柳町一一　鈴木金次郎氏長女美代子
△鎌田町五二　武藤資美氏三男保
▲婚姻
△白銀町五　水車業戸田強氏(二五)
西白河郡中畑村　水戸ナミ(二三)
▲死亡
△白銀町一四　高橋トヨ(四つ)
△菅城跡四　山崎馨(一つ)

家庭欄

うめの花漬

梅干の種をとり、肉ばかりをとつて、すり鉢でよくすり器の底にたひらに二分かさにして、それに梅の花の半開ぐらゐのものをとつてさします、さし方は花の臺を短く切つて、がくが梅のすり肉にかくれるぐらゐにします。かうして一ならべさしましたらきつちりと蓋をして、なほ日本紙で固く目張りをして冷しい場所に貯へておきますと、いつまでも香りが失せません。時々出して茶碗に二つ三つこの花を入れまして、熱いお湯を注いでいたゞきますとなか〳〵結構です、梅の外、桃の花でも櫻の花でもまたは、小菊などでもかうしておきますと、よろしうございます、お客樣に差上げても喜こばれます